

第六章 メールリストサーバ

Group 2
ぶっこみ野郎ニャ〜チーム

目次

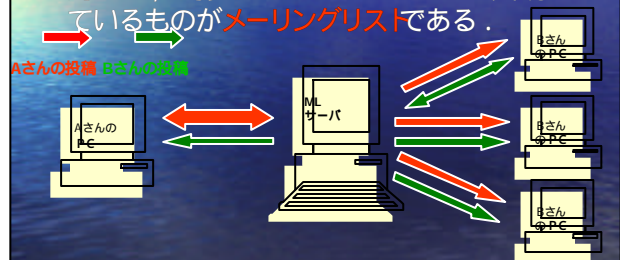
- はじめに
- メールリストとは
- ML管理ソフトについて
- 実験の流れ
- まとめ
- 参考文献

はじめに

- 目的
今回の実験はこれまでに構築したネットワーク上でメールリストサーバを利用した1対多のメールによるコミュニケーションを実現する事を目的とする。

メールリストとは

- 通常のメールでは1対1を実現しているのに対して、1対多のコミュニケーションを実現しているものがメールリストである。



ML管理ソフトについて (1)

- 通常,MLには参加者全員にメールのコピーを送る機能だけではなく,参加者の登録・削除・変更や表題にインデックスを付加する機能などを有している.MLを運営する上で上記のような機能や管理者を支援するツールを提供するソフトをML管理ソフトという。

ML管理ソフトについて (2)

次に代表的なML管理ソフトを挙げる

ソフト名	OS	特徴
Majordomo	UNIX	世界で最も利用されているML管理ソフト
Fml	UNIX/ Windows NT	日本で作られたML管理ソフト
CML	UNIX	シェルスクリプトで書かれたML管理ソフト
Ezmlm	UNIX	Qmailと連携させて効率的な配送を実現できるML管理ソフト
Macjordomo	MacOS	Macintoshで実現できるML管理ソフト

実験の流れ (1)

1. fmlをメインサーバから取得し,解凍・展開する.
2. Fml-3.0p132ディレクトリ以下にあるmakefulを使用しfmlをインストールする.
3. MLを管理するためのfmlというアカウントを追加する.
4. グループ内のメンバーをユーザとした"groupX"というMLを新規作成する.

実験の流れ (2)

1. 作成した"groupX"というグループにfml@gX.a360.info.kochi-tech.ac.jpというメンバーを新たに追加する.
2. MLにメールを送信する事により,問題なくMLが配信されている事を確認する.
3. 最後にMLの削除とMLメンバーの削除を行う

おまけ

- ML管理者とシステム管理者が同じである必要はない.
- MLの多様は避けましょう.内容のないメールは多くの人に迷惑がかかる原因となる.

参考文献

- ネットワークリテラシー
発行:高知工科大学 情報システム工学科
- http://www.info.kochi-tech.ac.jp/ren/j/teaching/year2003/Lab3k4k_files/chpt06.pdf
情報工学実験3 HP